

# 駒林小 学校便り

令和4年度  
3月号  
2月28日発行

## 卒業生になる時

校長 西尾 武泰

3月を迎え、令和4年度も最後の一か月となりました。2月にはインフルエンザが流行し、本校でも学級閉鎖となったクラスもありましたが、現在は徐々に感染も収まってきています。新型コロナウイルスと合わせての感染症対策ですがこれからもしっかりと行っていきます。

さて、3月17日には駒林小学校第50回卒業式があります。卒業式では卒業証書を受け取るために6年生の一人一人が舞台上がります。そして、担任が名前を呼ぶと「はい。」と返事をします。この返事は児童にとって小学生としての最後の返事ですので、担任は児童の顔を見ながら心を込めて名前を呼びます。名前を呼ばれた児童はたった一言の「はい。」に卒業に対する想いを込めます。担任の呼名と児童の返事。このために担任は何度も何度も呼名の練習をします。誰もいなくなった放課後の教室で、呼名の練習をする担任をこれまで何度も私は見てきました。そして児童も「はい。」という返事の練習をします。

返事をした後、緊張しながらゆっくりと舞台の中央まで歩き、学校長の前で一礼をして、いよいよ卒業証書を受け取ります。受け取るまでが6年生。そして受け取った瞬間に児童は卒業生となり新たな一步を踏み出します。6年間の小学校生活を終えて、卒業生となる感動の瞬間に間近で立ち会えることが私たち教職員の喜びでもあり嬉しさでもあります。卒業生には「おめでとう。」「これからも頑張るね。」など、保護者や教職員の心からのエールを受けとりながら、この先も立派な中学生になってほしいと願っています。

この一年間、保護者、地域の皆様には学校へのご協力をいただき、ありがとうございました。子どもは多くの人との触れ合いの中で、よりよい人間関係を築きながら成長していきます。

「人は家庭の教えで芽が出て、学校の教えで花が咲き、地域の教えで実がなる。」という言葉があるように、これからも地域の中で育つ子どもたちへ励ましの言葉やお気づきになったことなどの声掛けをお願いいたします。

今年度も本当にお世話になりました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

